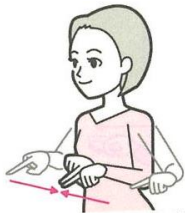




「おかえり」「ただいま」と言い合える松ろうに
松江ろう学校はシトラスリボンプロジェクトを応援します



共に

手と心でつながる わかりあえる喜び
～笑顔あふれる松ろう～

かきばらの風

第52号 令和3年11月29日

松江ろう学校 校長だより 福島朗博

指先を前に向けた両手人差し指を左
右から引き寄せてつける

2年ぶりの松ろう祭 ～今こそ、みんなで共に、繋がろう！～

■松ろう祭 子どもたちキラキラ☆☆輝いてました（11月20日）

子どもたちがずっと待ち望んでいた松ろう祭でした。感染対策を講じて保護者と全校の子どものみの入場制限をかけ（教職員は各職員室よりモニター越しに応援を送っていました）、2年ぶりに開催することができました。開会式では、ずっと待ちこがれていたかのようにワクワクする子どもたちのまなざしや表情が印象的でした。今回の生徒会によるスローガン「今こそ、みんなで共に、繋がろう！」には、コロナ禍で昨年度できなかった思いを一緒に味わってきた仲間と共に、今こそ協力して繋がって楽しみたいという強い願いがこめられていました。松ろうのキャッチフレーズ「手と心でつながる わかりあえる喜び」をイメージしたデザインで、大きな両手の絵とみんなの心を表したハート型の寄せ書き（子ども一人一人の目標や絵）も素敵でした。そして、幼稚部から高等部まで学習発表を行いました。子どもたちは、見事な演技と発表で期待に応えてくれました。祭りの大きな行事の節目を「仲間と共に」経て、これからさらにどんなふうにより一人一人が成長してくれるか楽しみです。保護者の皆様には、温かい応援をありがとうございました。幼稚部小学部をはじめ、ほとんどの方がお子さんと一緒に、最後まで観てくださったことも大きな喜びでした。親子共々に上の学部先輩をロールモデルとして、またお子さんの将来の姿としてイメージできる機会になったならば、実に嬉しく思います。以下は各学部の劇や発表の様子について、担当者からの感想をこめた報告です。ごらんください。



▼幼稚部『やきいもできたよ』

2年ぶりの松ろう祭で、劇を体験したことのある幼児は9人中3人しかいませんでした。それでも、子どもたちが大好きな絵本「いもほりよしよ」を参考に作ったお話の上に、みんなの育てたさつまいも、大好きな焼き芋が題材なので、楽しんで劇遊びをすることができました。ぱんだ組さんの得意なことの発表があり、それをうさぎ組さんも一緒に楽しめました。「先生を見て！」「大きな声で！」「大きな手話で！」「笑顔で楽しんで！」を目標に取り組みました。それぞれがベストを發揮でき、かわいらしい演技ができました。手拍子や拍手での応援、ありがとうございました。（三島先生）



▼小学部『スイミー』

今年は2年ぶりの劇ということもあり、小学部のみんなが主役になれるような内容がいいと思いました。そこで、教科書にも載っていて親しみのある「スイミー」を取り上げて、子どもたちが楽しく取り組めるようにアレンジしました。子どもたちは、劇の流れやダンスなどをすぐに覚え、台詞や動きなどの個人練習も頑張っていました。練習を積み重ねるごとに自信が付いて大きくなっていく声や動きにも感心しました。本番では緊張しながらも、それぞれが自分の力を十分に發揮していました。堂々とした演技や楽しそうな笑顔、そして緞帳が閉まると



きのやりきった表情に感動しました。小学部みんなで1つのものを作り上げた喜びや、自分の役を最後まで演じきった達成感などが、みんなの心に残るといいなと思います。(高野先生)

▼中学部『与志先生物語』

「人の死はその人のことを語る人がいなくなるとき、本当に訪れる」という考え方があります。与志先生の記憶を風化させないため、この劇を通して多くの人が与志先生を語る機会を得て本当によかったと思います。そして、これから生きる子どもたちが与志先生の生き方に触れることができました。生徒は今回の舞台発表で明治期の人々を演じることを通して、今当たり前前に過ごしている学校生活は、実は「130年前に与志先生が思い描いていた理想の世界」であったのだと想いを馳せ、今を「よりよく生きようとする力」に繋がったことでしょう。力を合わせて与志先生の生き様を表現することのできた生徒たちを心から誇りに思います。(春日先生)



▼高等部『仲間とわかり合える喜び』

バックは県立大学の学生の応援♪

『みんなが笑顔で暮らせる社会』をテーマに学習を進めて3年目となりました。聞こえにくい人、聞こえない人の生活に焦点をあて、令和元年度は、社会を変えてこられた先人の取り組みを学び“理解を深める”、令和2年度は、手話カフェの开店、聴覚障がい者&筆談お願いマーク入りキーホルダーの製作など、“実現する”ために取り組みました。3年目の今年度は、私たちと共に活動したいという思いをもった大学生5名と運命的な出会いをしました。私たちは、大学生5名と共に手話の魅力伝えるため、社会に一步“踏み出し”ました。大学生との手話歌「believe」、**“なりたい自分”**を描き、それに向かって踏み出す姿を歌にしたking&princeの『君を待ってる』を、自分たちで考えた表現方法で、手話の魅力と私たちの思いを込めて発表しました。私たちの活動は、始まったばかり。“なりたい自分になるために”そして『みんなが笑顔で暮らせる社会を実現する』ために、これからも続きます。(手銭先生)



■松ろう魅力化プロジェクトチーム立ち上げました ～コミュニティ・スクールに向けて～

来年度より、本校ではコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入します。「地域とともにある学校」を目指して、現存の学校評議員会制度よりも強力に、学校と家庭、地域が力を合わせて、学校の運営を推進する仕組みで、県内の全特別支援学校で一斉にスタートします。

今年度はその準備にあたり、1学期には教職員全員に「松ろう魅力化」のためのプレゼンを行ってもらい、出された内容から方向性を3つのキーワードに分類しました。「まなびあう」「つながりあう」「わかりあう」です。8月には若手と中堅教員9名によるプロジェクトチーム(チーム長:石田先生)を立ち上げて、これまで4回話し合いをもちました。そのなかで、「松ろうの魅力と課題は何か」を洗い出せるように、11月に保護者と卒業生、教職員にアンケート調査を行い(ご協力ありがとうございました)、また学校の目指す姿、教育理念や果たすべき役割などを描く経営全体構想となるグランドデザインの作成にとりかかっています。下図は、先ほどの3つのキーワードを松ろうのこれからの方向性としてグランドデザインに落とし込むために表した内容です。21世紀を担う子どもたちに「自分らしく主体的に生きる力が育つ」ために、これから校内全体で教育内容を再検討して、グランドデザインを完成させていきます。

<p>まなびあう 松ろうの使命として ろう教育の専門性と授業力の向上</p>	<p>つながりあう 自己有用感の育成のために 家庭・地域との連携協働「松ろう応援団」</p>	<p>生徒とともに動く わかりあう 聴覚障がいの理解啓発・センター的機能 「知らない人にも知ってもらいたい」</p>
---	---	---

このおたより「かきばらの風」のバックナンバーは
松江ろう学校ホームページでご覧になれます⇒

